

事務事業名		千石船気仙丸活用事業		<input checked="" type="checkbox"/> 実施計画掲載事業		<input type="checkbox"/> 総合戦略掲載事業																						
政策体系	政策名	011 豊かな市民生活を実現する産業の振興		事業期間		予算科目																						
	施策名	015 豊かな地域資源を活用した観光の振興				会計	款	項	目	事業																		
	基本事業名	011 観光客の誘致と観光宣伝の充実				01	07	01	04	21																		
根拠法令				<input type="checkbox"/> 単年度のみ		事務事業区分																						
所属		商工港湾部観光交流推進室		<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (開始 令和2 年度～)					A 政策事業 B 施設整備 C 施設管理 ④ 補助金等 E 一般(A～D以外)																			
		課長名 森 正		<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 【計画期間】 年度～ 年度		※全体計画欄の総投入量を記入																						
		係名		電話 0192-27-3111					全体計画(※期間限定複数年度のみ)																			
		担当者 金野道程		内線 113		<table border="1"> <tr><td>国庫支出金</td><td></td></tr> <tr><td>都道府県支出金</td><td></td></tr> <tr><td>地方債</td><td></td></tr> <tr><td>その他</td><td></td></tr> <tr><td>一般財源</td><td></td></tr> <tr><td>事業費計(A)</td><td>0</td></tr> <tr><td>正規職員従事人数</td><td></td></tr> <tr><td>延べ業務時間</td><td></td></tr> <tr><td>人件費計(B)</td><td>0</td></tr> <tr><td>トータルコスト(A)+(B)</td><td>0</td></tr> </table>						国庫支出金		都道府県支出金		地方債		その他		一般財源		事業費計(A)	0	正規職員従事人数		延べ業務時間		人件費計(B)
国庫支出金																												
都道府県支出金																												
地方債																												
その他																												
一般財源																												
事業費計(A)	0																											
正規職員従事人数																												
延べ業務時間																												
人件費計(B)	0																											
トータルコスト(A)+(B)	0																											
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)				<p>東日本大震災の津波に無傷で耐えた奇跡の船「千石船気仙丸」を、歴史的価値のある地域の宝として誰にでも見える形で陸揚展示するための費用を補助する。</p> <p>事業費は、千石船気仙丸の所有者である大船渡商工会議所に補助金を交付する。</p> <p>令和2年度は、気仙丸の陸揚げ展示に係る本体修繕及び長寿命化のための液体ガラス塗装作業を実施。</p> <p>令和3年度は、修理した千石船気仙丸を大船渡駅周辺地区に運搬し、陸揚げ展示する予定。</p> <p>また、陸揚げ展示後の維持管理については、気仙丸の管理運営を行う千石船気仙丸管理運営委員会(事務局:大船渡商工会議所)に補助金を交付する。</p>																								

(1) 事務事業の目的と指標													
① 手段(主な活動)	⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)												
前年度実績(前年度に行った主な活動)	<table border="1"> <tr><th colspan="2">名称</th><th>単位</th></tr> <tr><td>ア</td><td>交付件数</td><td>件</td></tr> <tr><td>イ</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>ウ</td><td></td><td></td></tr> </table>	名称		単位	ア	交付件数	件	イ			ウ		
名称		単位											
ア	交付件数	件											
イ													
ウ													
今年度計画(今年度に計画している主な活動)	⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)												
<ul style="list-style-type: none"> 千石船気仙丸の陸揚げ展示に係る本体修繕及び液体ガラス塗装作業 修理した千石船気仙丸を大船渡駅周辺地区に運搬し、陸揚げ展示 室内展示用パネルやリーフレットの作成 千石船気仙丸管理運営委員会による千石船気仙丸の維持管理及び利活用 	<table border="1"> <tr><th colspan="2">名称</th><th>単位</th></tr> <tr><td>カ</td><td>市人口</td><td>人</td></tr> <tr><td>キ</td><td>観光入込客数(暦年)</td><td>千人</td></tr> <tr><td>ク</td><td></td><td></td></tr> </table>	名称		単位	カ	市人口	人	キ	観光入込客数(暦年)	千人	ク		
名称		単位											
カ	市人口	人											
キ	観光入込客数(暦年)	千人											
ク													
② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等	⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)												
<ul style="list-style-type: none"> 大船渡商工会議所 千石船気仙丸管理運営委員会(事務局:大船渡商工会議所) 市民及び観光客 	<table border="1"> <tr><th colspan="2">名称</th><th>単位</th></tr> <tr><td>サ</td><td>見学者数</td><td>人</td></tr> <tr><td>シ</td><td>利活用事業実施回数</td><td>回</td></tr> <tr><td>ス</td><td></td><td></td></tr> </table>	名称		単位	サ	見学者数	人	シ	利活用事業実施回数	回	ス		
名称		単位											
サ	見学者数	人											
シ	利活用事業実施回数	回											
ス													
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)													
<ul style="list-style-type: none"> 千石船気仙丸を陸上展示する。 千石船気仙丸を維持管理する。 市民及び観光客が、気仙丸を見学し、気仙の船大工による卓越した気仙丸の建造技術などにふれあう。 													
④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)													
<ul style="list-style-type: none"> 大船渡市を訪れる。 魅力がPRされ、認知度が高まる。 													

(2) 総事業費・指標等の推移																																																																																																																																																											
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">投入量</th> <th rowspan="2">単位</th> <th colspan="7">年度</th> </tr> <tr> <th>27年度(実績)</th> <th>28年度(実績)</th> <th>29年度(実績)</th> <th>30年度(実績)</th> <th>元年度(実績)</th> <th>2年度(実績)</th> </tr> <tr> <td rowspan="6">事業費</td> <td>国庫支出金</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>都道府県支出金</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>地方債</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>53,000</td> </tr> <tr> <td>一般財源</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>事業費計(A)</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>53,000</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">人件費</td> <td>正規職員従事人数</td> <td>人</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>延べ業務時間</td> <td>時間</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>320</td> </tr> <tr> <td>人件費計(B)</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1,280</td> </tr> <tr> <td>トータルコスト(A)+(B)</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>54,280</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">⑤活動指標</td> <td>ア</td> <td>件</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>イ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ウ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">⑥対象指標</td> <td>カ</td> <td>人</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>34,796</td> </tr> <tr> <td>キ</td> <td>千人</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>430</td> </tr> <tr> <td>ク</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">⑦成果指標</td> <td>サ</td> <td>人</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>シ</td> <td>回</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>ス</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>		投入量	単位	年度							27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	元年度(実績)	2年度(実績)	事業費	国庫支出金	千円							都道府県支出金	千円						地方債	千円						その他	千円					53,000	一般財源	千円						事業費計(A)	千円					53,000	人件費	正規職員従事人数	人					1	延べ業務時間	時間					320	人件費計(B)	千円					1,280	トータルコスト(A)+(B)	千円					54,280	⑤活動指標	ア	件					1	イ							ウ							⑥対象指標	カ	人					34,796	キ	千人					430	ク							⑦成果指標	サ	人					0	シ	回					0	ス						
投入量	単位			年度																																																																																																																																																							
		27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	元年度(実績)	2年度(実績)																																																																																																																																																				
事業費	国庫支出金	千円																																																																																																																																																									
	都道府県支出金	千円																																																																																																																																																									
	地方債	千円																																																																																																																																																									
	その他	千円					53,000																																																																																																																																																				
	一般財源	千円																																																																																																																																																									
	事業費計(A)	千円					53,000																																																																																																																																																				
人件費	正規職員従事人数	人					1																																																																																																																																																				
	延べ業務時間	時間					320																																																																																																																																																				
	人件費計(B)	千円					1,280																																																																																																																																																				
	トータルコスト(A)+(B)	千円					54,280																																																																																																																																																				
⑤活動指標	ア	件					1																																																																																																																																																				
	イ																																																																																																																																																										
	ウ																																																																																																																																																										
⑥対象指標	カ	人					34,796																																																																																																																																																				
	キ	千人					430																																																																																																																																																				
	ク																																																																																																																																																										
⑦成果指標	サ	人					0																																																																																																																																																				
	シ	回					0																																																																																																																																																				
	ス																																																																																																																																																										

事務事業ID	1455	事務事業名	千石船気仙丸利活用事業
--------	------	-------	-------------

- (3) 事務事業の環境変化・住民意見等**
- ① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？
千石船気仙丸は、平成3年に建造され、ドラマや映画の撮影、三陸・大船渡夏まつりでの湾内巡行などに活用されてきた。しかし約30年が経過し、老朽化による劣化が進行していることから、東日本大震災の津波に耐えた奇跡の船「千石船気仙丸」を修理して歴史的価値のある地域の宝として残し、気仙の船大工による卓越した建造技術・技能と文化を後世に伝えるため事業を開始した。
- ② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは後期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？
令和2年8月に、千石船気仙丸は、係留先の蛸ノ浦漁港から工事場所までの最後の湾内えい航の様子が新聞やテレビで紹介され、その後の修理工事着手の状況のマスコミ報道により、市内外の多くの方々に認知されている。
令和2年度は、千石船気仙丸の修理及び長寿命化のための液体ガラス塗装作業がおおむね完了した。令和3年度に、修理した千石船気仙丸を大船渡駅周辺地区に運搬し、陸揚げ展示する。
- ③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？
・平成28年9月、「千石船気仙丸利活用検討委員会」から市に対し、ミュージアムの建設による気仙丸の復活と利活用を骨子とする要望書が提出された。
・市議会から展示による利活用の要望が寄せられていた。

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている ⇒【理由】	豊かな地域資源を活用した観光振興の実現のため、千石船気仙丸を陸揚げ展示して市内外の多くの方々に見学してもらうことにより、観光客の誘致と観光宣伝の充実に結びつく。
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である ⇒【理由】	千石船気仙丸を歴史的価値のある地域の宝として残し、気仙の船大工による卓越した建造技術・技能と文化を後世に伝えることや利活用による観光誘客を目的としていることから、市の政策に直結する事業であり、市の支援が必要である。
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 適切である ⇒【理由】	千石船気仙丸を歴史的価値のある地域の宝として残し、気仙の船大工による卓越した建造技術・技能と文化を後世に伝えることや利活用による観光誘客を目的としていることから、対象・意図は妥当である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】	千石船気仙丸の陸上展示後は、千石船気仙丸管理運営委員会が関係機関との連携により、建造技術の伝承や誘客のための効果的な利活用に取り組むことにより、成果の向上の余地がある。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	<input type="checkbox"/> 影響無 ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 影響有 ⇒【その内容】	事業を廃止・休止した場合、千石船気仙丸の維持管理や運営ができなくなる。
効率性 評価	⑥ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】	市の政策に直結する事業であり、事業費の削減余地はない。
	⑦ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】	補助金申請の審査や事業実施に係る事業主体との調整など必要最小限の事務であり、人件費の削減余地はない。
公平性 評価	⑧ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】	歴史的価値のある地域の宝として誰もが見える形で陸上展示し、建造技術の伝承や誘客のため、市内外の方々に見学してもらうことから、受益機会は公平・公正である。

3 今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 改革改善の方向性	(2) 改革・改善による期待成果																	
① 現状維持 2 改革改善(縮小・統合含む) → 3 終了・廃止・休止	左記(1)の改革改善を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (終了・廃止・休止の場合は記入不要)																	
(3) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等 千石船気仙丸の修理及び陸上展示に係る工事は、令和2年度に着手し、令和3年度に完成予定である。今後は、気仙の船大工による卓越した建造技術の伝承や誘客のため、関係機関との連携による千石船気仙丸管理運営委員会の利活用に向けた取組が重要となる。	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <th rowspan="2">成果</th> <th>向上維持</th> <td></td> <td>●</td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </tbody> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上維持		●		低下		×	×
				コスト														
		削減	維持	増加														
成果	向上維持		●															
	低下		×	×														

4 課長等意見

(1) 今後の方向性	(2) 全体総括・今後の改革改善の内容
① 現状維持 2 改革改善(縮小・統合含む) 3 終了・廃止・休止	大船渡市の中心市街地への展示となっていくことから、多くの見学者が訪れるような取組を行っていく必要がある。